総合政策研究　第17巻第1号（2014）15–23

日本と中国における大学生の進路意識と職業意識に関する比較

Cross-national Comparison Study of the Career and Occupational Attitudes between Japanese and Chinese University Students.

山本　ちか*・二宮　克美**・駱　天驕***

要約　本研究の目的は，大学生がどのような進路意識と職業意識をもっているのか，その様相を記述し，日本と中国の大学生の意識の相違を比較検討することであった．日本の大学生は，進路を考える際に，楽しみである一方で，不安も高かった．また，進路や職業選択の際に，より多くの要因を重視し，特に職種や業種，対人関係の側面を重視しているといった特徴が顕著であった．一方，中国の大学生は，将来に明確な目標をもち，就きたい職業の知識ももっているなど進路と職業に関する自己認識が高いといった特徴が顕著であった．

キーワード　進路意識，職業意識，大学生，日中比較

【問題と目的】

職業意識について，「職業に関してもつ個人の知識・見方・考え方・態度を含んだ個人の中における職業的現象をすべて含んだ包括的な概念であり，職業を媒介とした一種の人生観ともいえるのが職業意識である」ということが指摘されている（広井，1982）．現在の大学生はどのような進路意識，職業意識をもっているのであろうか．大学生にとって卒業後の進路選択は，人生上の重要な選択の1つであり，どのような職業意識をもち，進路選択をしていくのかは，その後の生き方に大きな影響を与える重要な課題である．

日本青少年研究所では，高校生を対象とした進路と職業意識に関する調査を行っている（日本青少年研究所，2013）．その結果，高校生は進路を考える際の気持ちについて，将来どうなるか不安を感じていた．進路や職業に関する自己認識では，「自分にどのような能力・適性があるのかを知っているか」の肯定率が低く，自己評価が消極的である傾向がみられた．また，日本・米国・中国・韓国の高校生の国際比較も行われており，日本の高校生と比較して中国の高校生は，自分の進路についていろいろな情報を調べていた．また，働く目的は「家族の幸せのため」といった個人的な目的の選択率が高いなど，日中間で相違がみられている．

今城・瀧本（2011）の研究では，日本と中国の大学生に調査を実施している．日本の学生では安定した収入を得るための手段として働くことを捉える学生が3分の1程度であるのに対し，中国の学生はより上を目指して自分の能力を発揮し，結果として高い地位を得ることを働く目的とする人が多い．このように日本と中国の青年には，職業意識に違いがみられることが明らかとなっている．

本研究では，職業意識を，進路を考える際の感情，進路や職業についての自己認識，職業選択の際に重視する要因，就業目的といった視点から広範囲に捉える．そして，大学生はどのような進路意識と職業意識をもっているのか，その様相を記

*愛知学院大学総合政策学部非常勤講師（名古屋文理大学短期大学部准教授）　**愛知学院大学総合政策学部教授
***愛知学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期（2014年3年修了）

述することを目的とする．さらに，日本と中国の大学生の進路意識と職業意識の相違について比較検討する．

【方法】

1．調査協力者と調査実施時期

（1）日本

愛知県内のA大学の学生219名（男子154名，女子65名）に調査を行った．学年の内訳は，2年生70名（男子47名，女子23名），3年生92名（男子62名，女子30名），4年生57名（男子45名，女子12名）であった．調査実施時期は2013年6月であった．

（2）中国

黒龍江省の師範大学の学生255名（男子144名，女子111名）に調査を行った．学年の内訳は，2年生80名（男子47名，女子33名），3年生110名（男子52名，女子58名），4年生65名（男子45名，女子20名）であった．調査実施時期は2013年7月であった．

2．調査内容

調査項目の多くは，日本青少年研究所の「高校生の進路と職業意識に関する調査（2013）」の項目をもとに調査項目を作成した．

①進路についての相談相手（7項目）：自分の進路について誰に相談するかを，「父親」，「母親」，「友人」，「学校の先生」，「兄姉」，「先輩」，「その他」について，「相談する」と「相談しない」の2択でたずねた．

②進路を考える際の気持ち（4項目）：「将来自分がどうなるか不安になる」など進路を考える際にどのような気持ちになるのかを，「全くそうである」から「全くそうではない」の4件法でたずねた．

③進路を決定する際に重視する要因（15項目）：業種，企業理念，職種，勤務時間など，最終的に進路を決定する際に重視する内容について，「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4件法でたずねた．

④進路と職業に関する自己認識（4項目）：自分の適性や就きたい職業の知識がどれだけあるか，進路についての情報収集の状況，職業事情への関心度などについて，「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」まで4件法でたずねた．

⑤職業選択で重視する要因（11項目）：職業選択において，収入や社会的地位などを，どのくらい重要視するかを「とても重要」から「全く重要でない」の4件法でたずねた．

⑥職業選択で影響力をもつ他者（8項目）：職業を選ぶにあたって，だれの影響力が大きいと思うかを「大きい」と「大きくない」の2択でたずねた．

⑦就業目的（6項目）：「家族の幸せのため」，「自己実現のため」など，働く目的は何だと思うかを「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4件法でたずねた．

⑧職業観（6項目）：「収入さえあればよい」，「楽しく働きたい」など，職業観を，「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4件法でたずねた．

⑨生活意識（18項目）：「人間は目標がないと暮らしてゆけない」，「多少退屈でも平穏な生涯を送りたい」などの生活意識について，「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4件法でたずねた．

【結果および考察】

1．進路についての相談相手

それぞれの項目（相談相手）について，「相談する」と回答した人数（%）をTable1に示した．その結果，中国の男子は，「父親」や「母親」といった家族に相談する割合が高かった．日本は男女ともに，「友人」に相談する割合が高かった．また日本の男子は「大学の先生」に相談する割合も高かった．

2. 進路を考える際の気持ち

4項目の平均値をみると，「将来自分がどうなるか不安になる」という項目で，日本の男女と中国の女子で3点を超えていた．

4項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table2）．その結果，「自分の可能性が広がるようで，楽しみにしている」（F=5.41, p=.020），「将来自分がどうなるか不安になる」（F=13.61, p<.001），「自分の将来にそんなにいいことはないので，考えてもつまらない」（F=5.88, p=.016）の3項目では，日本の学生の得点が高かった．日本の学生は，進路を考える際に，楽しみである一方で，不安も高いという結果である．なお，いずれの項目も性差は見られなかった．

「いまが楽しければいいので先のことは考えない」では，交互作用がみられ，男子で日本の学生の得点が高かった（F=15.56, p<.001）．日本では男子の得点が高く（F=5.32, p=.022），中国では女子の得点が高かった（F=7.59, p=.006）．

3. 進路を決定する際に重視する要因

15項目を通してみると，日本，中国ともに，「職場の雰囲気」を重視していることが分かる．次いで，得点が高い項目は，「職種（仕事内容）」，「勤務地」，「勤務時間」であり，学生はこうしたことを重視していることが読み取れる．

15項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table3）．主な結果は，「業種」（F=10.45, p=.001），「企業理念」（F=6.40, p=.012），「職種」（F=13.65, p<.001），「勤務地」（F=4.27, p=.039），「勤務する人たちの魅力度」（F=6.00, p=.015），「職場の雰囲気」（F=14.73, p<.001）の6項目では，日本の学生の得点が高かった．一方，「育児休業・休暇等の制度」（F=7.69, p=.006），「勤め先のキャリアパス・人事育成制度」（F=6.57, p=.011），「勤め先の規模」（F=6.98, p=.009）の3項目では，中国の学生の得点が高かった．日本の学生は，職種や業種，対人関係の側面を重視していることがうかがえる．

Table1 進路についての相談相手

	日本				中国			
	男子（154名）		女子（65名）		男子（144名）		女子（111名）	
	人数	（%）	人数	（%）	人数	（%）	人数	（%）
父親	90	（58.4）	38	（58.5）	111	（77.1）	75	（67.6）
母親	91	（59.5）	42	（64.6）	126	（87.5）	64	（57.5）
友人	127	（83.0）	55	（84.6）	93	（65.5）	59	（53.2）
大学の先生	108	（71.1）	38	（58.5）	64	（45.1）	59	（53.6）
兄姉	64	（42.7）	35	（53.8）	47	（33.3）	46	（41.8）
先輩	69	（46.0）	31	（47.7）	59	（41.5）	48	（43.2）
その他	35	（23.5）	19	（29.2）	34	（24.5）	38	（34.2）

%の算出には欠損値を除いている

Table2 進路を考える際の気持ちの平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	（SD）	平均値	（SD）	平均値	（SD）	平均値	（SD）	日本・中国差	性差	交互作用
自分の可能性が広がるようで、楽しみにしている	2.59	（0.84）	2.65	（0.80）	2.35	（0.92）	2.50	（0.86）	日本＞中国	n.s	n.s.
将来自分がどうなるか不安になる	3.34	（0.75）	3.35	（0.82）	2.96	（1.03）	3.10	（0.88）	日本＞中国	n.s	n.s.
自分の将来にそんなにいいことはないので、考えてもつまらない	2.18	（0.81）	2.02	（0.84）	2.35	（0.78）	2.24	（0.93）	日本＞中国	n.s	n.s.
いまが楽しければいいので先のことは考えない	2.29	（0.92）	1.98	（0.84）	1.88	（0.82）	2.19	（0.93）	n.s.	n.s	男子：日本＞中国 日本：男子＞女子 中国：男子＜女子

「転職の有無」(F=4.37, p=.037)，「勤務時間」(F=8.13, p=.006）については，女子の得点が高いという性差がみられ，女子の方が労働条件を重視していた．また「企業理念」と「職種」については交互作用がみられ，女子は日本の学生の得点が高く（F=10.10, p=.002; F=20.82, p<.001)，中国では男子の得点が高かった（F=8.53, p=.004; F=23.16, p<.001)．「育児休業・休暇等の制度」については，女子は日本に比べ中国の学生の得点が高く（F=12.04, p=.001)，中国では女子の得点が高かった（F=6.97, p=.009)．

4. 進路と職業に関する自己認識

5項目の中で，日本の男女と中国の女子で「最近の職業事情について関心をもっている」という項目が最も得点が高い．

5項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table4)．その結果，「自分の将来について，はっきり目標をもっている」(F=6.90, p=.016）と「就きたい職業についての知識をもっている」(F=11.97, p=.001）では，中国の学生の得点が高かった．また「就きたい職業についての知識をもっている」では，女子では日本に比べ中国の学生の得点が高かった（F=16.18, p<.001)．日本では男子の得点が高かったが（F=4.28, p=.039)，中国では女子の得点が高かった（F=4.83, p=.028)．中国の学生は，より将来に目標をもち，知識ももっていると自己評価している．また，「最近の職業事情について関心をもっている」(F=10.66, p=.001）では，女子の得点が高いという性差がみられた．

5. 職業選択で重視する要因

日本の男子では，「安定性」，「仕事の環境」，「収入」の順で得点が高い．日本の女子は，「仕事の環境」，「安定性」，「適性や好み」の順で得点が高くなっている．中国の男子は，「仕事の環境」，「安定性」，「自由度」の順である．中国の女子は，「安定性」，「適性や好み」，「仕事の環境」の順である．共通してみると，職業選択で重視する要因は，「安定性」と「仕事の環境」であることが分かる．

11項目で，国別（2）×性別（2）の分散分析を行っ

Table3　進路を決定する際に重視する要因の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
業種	3.05	(0.79)	3.20	(0.73)	2.94	(0.86)	2.77	(1.02)	日本＞中国	n.s.	n.s.
企業理念	2.65	(0.75)	2.75	(0.79)	2.65	(0.76)	2.36	(0.89)	日本＞中国	n.s.	女子：日本＞中国 中国：男子＞女子
職種（仕事内容）	3.25	(0.69)	3.33	(0.62)	3.24	(0.69)	2.77	(1.06)	日本＞中国	男子＞女子	女子：日本＞中国 中国：男子＞女子
業務推進上の裁量範囲	2.61	(0.73)	2.67	(0.76)	2.63	(0.74)	2.53	(0.97)	n.s.	n.s.	n.s.
転職の有無	2.43	(0.87)	2.55	(0.85)	2.53	(0.87)	2.75	(0.79)	n.s.	男子＜女子	n.s.
希望部署への配属	2.82	(0.85)	2.85	(0.87)	2.70	(0.90)	2.64	(0.95)	n.s.	n.s.	n.s.
勤務時間	3.22	(0.82)	3.25	(0.71)	2.91	(1.04)	3.06	(0.87)	n.s.	男子＜女子	n.s.
勤務地	3.25	(0.87)	3.28	(0.80)	2.92	(1.09)	3.23	(0.83)	日本＞中国	n.s.	n.s.
育児休業、休暇等の制度	2.86	(0.95)	2.66	(1.02)	2.86	(1.02)	3.18	(0.83)	日本＜中国	n.s.	女子：日本＜中国 中国：男子＜女子
勤め先のキャリアパス、人事育成制度	2.80	(0.77)	2.75	(0.95)	2.85	(0.72)	3.10	(0.84)	日本＜中国	n.s.	n.s.
勤め先の成長性	2.93	(0.79)	2.88	(0.80)	2.95	(0.80)	2.96	(0.75)	n.s.	n.s.	n.s.
勤め先の規模	2.59	(0.86)	2.45	(0.94)	2.69	(0.83)	2.78	(0.85)	日本＜中国	n.s.	n.s.
勤務する人たちの魅力度	3.09	(0.78)	3.08	(0.74)	2.73	(1.03)	3.03	(0.81)	日本＞中国	n.s.	n.s.
職場の雰囲気	3.51	(0.64)	3.46	(0.71)	3.22	(0.93)	3.14	(0.94)	日本＞中国	n.s.	n.s.
自分が描くキャリア像	2.84	(0.82)	2.80	(0.96)	2.92	(0.78)	2.80	(0.91)	n.s.	n.s.	n.s.

た（Table5）．主な結果は，「収入」（F=27.28, p<.001），「適性や好み」（F=6.22, p=.013），「社会貢献」（F=4.57, p=.033），「仕事の環境」（F=9.36, p=.002），「勤め先の知名度」（F=94.27, p=.039）は，いずれも日本の学生の方が高いという差がみられた．中国の学生よりも日本の学生の方が職業選択で多くの要因を重視している．

「収入」（F=5.10, p=.024）と「社会的地位」（F=19.00, p<.001）については男子の得点が高く，「社会貢献」（F=7.20, p=.008）と「福利厚生施設」（F=6.84, p=.009）では女子の得点が高かった．「福利厚生施設」では，交互作用がみられ，日本の学生は，女子の得点が高かった（F=13.18, p<.001）．また「社会的地位」については，男子では日本よりも中国の学生の得点が高かった（F=17.71, p<.001）．中国の学生では男子の得点が高く（F=33.93, p<.001），中国の男子が「社会的地位」を特に重視していることがうかがえる．

6．職業選択で影響力を持つ他者

8項目（影響力をもつ他者）について，「影響力が大きい」と回答した学生の人数（%）を

Table4　進路と職業に関する自己認識の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
自分にはどのような能力・適性があるが知っている	2.45	(0.79)	2.48	(0.77)	2.47	(0.89)	2.58	(0.87)	n.s.	n.s.	n.s.
自分の将来について、はっきり目標をもっている	2.40	(0.97)	2.29	(0.95)	2.60	(0.97)	2.54	(0.97)	日本＜中国	n.s.	n.s.
就きたい職業についての知識をもっている	2.25	(0.86)	1.98	(0.78)	2.28	(0.87)	2.52	(0.88)	日本＜中国	n.s.	女子：日本＜中国 日本：男子＞女子 中国：男子＜女子
自分の進路について、いろいろな情報を調べている	2.60	(0.87)	2.34	(0.89)	2.36	(0.86)	2.36	(0.85)	n.s.	n.s.	n.s.
最近の職業事情について関心をもっている	2.81	(0.85)	2.95	(0.72)	2.53	(0.91)	2.92	(0.82)	n.s.	男子＜女子	n.s.

Table5　職業選択で重視する要因の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
収入	3.27	(0.68)	3.23	(0.63)	2.99	(0.83)	2.67	(1.06)	日本＞中国	男子＞女子	n.s.
社会的地位	2.51	(0.89)	2.42	(0.77)	2.94	(0.85)	2.30	(0.91)	n.s.	男子＞女子	男子：日本＜中国 中国：男子＞女子
安定性	3.44	(0.61)	3.34	(0.82)	3.26	(0.77)	3.27	(0.79)	n.s.	n.s.	n.s.
自由度	3.10	(0.71)	2.97	(0.81)	3.10	(0.70)	3.05	(0.67)	n.s.	n.s.	n.s.
適性や好み	3.23	(0.80)	3.28	(0.67)	2.91	(1.06)	3.17	(0.78)	日本＞中国	n.s.	n.s.
挑戦性	2.44	(0.86)	2.55	(0.85)	2.72	(1.00)	2.52	(0.84)	n.s.	n.s.	n.s.
能力の発揮	2.47	(0.91)	2.80	(0.81)	2.75	(0.96)	2.73	(0.92)	n.s.	n.s.	男子：日本＜中国 日本：男子＜女子
社会貢献	2.86	(0.85)	2.95	(0.86)	2.55	(0.94)	2.91	(0.82)	日本＞中国	男子＜女子	n.s.
仕事の環境	3.40	(0.75)	3.45	(0.73)	3.27	(0.90)	3.08	(0.91)	日本＞中国	n.s.	n.s.
福利厚生施設	2.55	(0.88)	3.08	(0.80)	2.92	(0.81)	2.84	(0.95)	n.s.	男子＜女子	男子：日本＜中国 日本：男子＜女子
勤め先の知名度	2.36	(0.92)	2.35	(0.82)	2.38	(0.92)	2.68	(0.82)	日本＞中国	n.s.	n.s.

Table6に示した．日本，中国ともに半数以上の学生が「父親」の影響力が大きいと回答している．「母親」や「友だち」についても影響力が大きいようである．

また，日本では，「メディア」の影響力が大きいと回答した学生が多かった（男子57.5%, 女子40.0%）．日本の男子では，「アイドル」と回答した学生も多かった（50.3%）．

7．就業目的

就業目的の中で，日本の男女ならびに中国の女子で「生計を立てるため」が最も得点が高かった．6項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table7）．その結果，「自己実現のため」（F=6.18, p=.013）と「生計を立てるため」（F=15.21, p<.001）では，日本の学生の得点が高いという差がみられた．「社会に役に立つため」（F=15.11, p<.001），「仕事を楽しむため」（F=6.89, p=.009），「生計を立てるため」（F=3.90, p=.049）の3項目では，女子の得点が高かった．

また交互作用がみられた項目もあり，「家族の幸せのため」では，男子では中国の学生の得点が高く（F=29.18, p<.001），女子では日本の学生の得点が高かった（F=5.32, p=.022）．また日本の学生では女子の得点が高く（F=4.95, p=.027），中国の学生では男子の得点が高かった（F=27.07,

Table6　職業選択で影響力をもつ他者

	日本				中国			
	男子(154名)		女子(65名)		男子(144名)		女子(111名)	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
父親	92	(60.1)	34	(52.3)	109	(75.7)	75	(68.2)
母親	71	(46.4)	40	(61.5)	87	(60.4)	68	(61.8)
親以外の家族	32	(20.9)	16	(24.6)	30	(21.1)	30	(27.3)
先生	60	(39.2)	23	(35.4)	32	(22.4)	27	(24.5)
先輩	62	(40.5)	23	(35.4)	32	(22.4)	35	(31.8)
友だち	71	(46.7)	30	(46.2)	66	(46.5)	40	(36.7)
アイドル	77	(50.3)	6	(9.2)	16	(11.3)	22	(20.0)
メディア	88	(57.5)	26	(40.0)	43	(29.9)	31	(28.2)

%の算出には欠損値を除いている

Table7　就業目的の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
家族の幸せのため	2.81	(1.01)	3.11	(0.75)	3.38	(0.67)	2.78	(1.06)	n.s.	n.s.	男子：日本＜中国 女子：日本＞中国 日本：男子＜女子 中国：男子＞女子
自己実現のため	3.08	(0.83)	3.18	(0.73)	3.08	(0.82)	2.77	(1.04)	日本＞中国	n.s.	女子：日本＞中国 中国：男子＞女子
社会に役に立つため	2.62	(0.92)	2.86	(0.83)	2.64	(0.91)	3.05	(0.72)	n.s.	男子＜女子	n.s.
人に尊敬されたいため	2.15	(0.85)	2.42	(0.85)	2.54	(0.95)	2.29	(0.90)	n.s.	n.s.	男子：日本＜中国 日本：男子＜女子 中国：男子＞女子
仕事を楽しむため	2.76	(0.94)	2.94	(0.79)	2.77	(0.90)	3.04	(0.77)	n.s.	男子＜女子	n.s.
生計を立てるため	3.49	(0.66)	3.60	(0.55)	3.14	(1.05)	3.34	(0.76)	日本＞中国	男子＜女子	n.s.

p<.001).「人に尊敬されたいため」という項目では，日本では女子の得点が高く（F=4.09, p=.044），中国では男子の得点が高かった（F=5.09, p=.025）.

8. 職業観

日中の男女ともに，「楽しく働きたい」の得点が最も高かった.

職業観6項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table8）．その結果，「収入さえあればよい」（F=5.06, p=.025）と「楽しく働きたい」（F=13.75, p<.001）では，日本の学生の得点が高いという差がみられた.「社会に貢献したい」（F=4.47, p<.035）では，女子の得点が高く，「出世したい」（F=7.79, p=.005）では，男子の得点が高かった.

また「自分の夢のために働きたい」と「プライドのもてる仕事をしたい」,「出世したい」の3項目で交互作用がみられた．その中でも「プライドのもてる仕事をしたい」と「出世したい」の2項目では，男子では中国の学生の得点が高く（F=17.56, p<.001, F=16.54, p<.001），中国の学生では女子より男子の得点が高かった（F=6.32, p=.012, F=21.69, p<.001）．中国の男子は，「プライドのもてる仕事」と「出世」を望むという職業観を特にもっていることがうかがわれる.

9. 生活意識

日本の男子は，「親に反対されても自分がやりたいことをしたい」という意識が高く，次いで「将来，職につけるかどうか不安だ」「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい」という項目の得点が高い．日本の女子，中国の男女は，「将来，職につけるかどうか不安だ」という項目で得点が高かった．こうした結果から，日中の大学生は職につけるかどうか不安に感じていることがわかる．また中国の男子では，「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」「努力すれば，きっと報われる」についても得点が高かった.

18項目について，国別（2）×性別（2）の分散分析を行った（Table9）．主な結果は，「若いうちはいろいろな仕事を経験したい」（F=5.25, p=.022），「多少退屈でも平穏な生涯を送りたい」（F=13.67, p<.001），「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい」（F=4.19, p=.041），「結果の成否は考えず，やってみることが大切だ」（F=6.49, p=.011）では，日本の学生の得点が高かった．一方，「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」（F=8.17, p=.004），「大きな組織の中で自分で力を発揮したい」（F=4.97, p=.026），「努力すれば，きっと報われる」（F=4.33, p=.038），「今の世の中は若者にとって息苦しい感じがする」（F=4.22, p=.040）では，中国の学生の

Table8 職業観の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本				中国				分散分析の結果		
	男子		女子		男子		女子				
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
収入さえあればよい	2.71	(0.87)	2.72	(0.84)	2.64	(0.85)	2.41	(0.97)	日本＞中国	n.s.	n.s.
楽しく働きたい	3.38	(0.66)	3.40	(0.70)	3.22	(0.86)	2.97	(0.96)	日本＞中国	n.s.	n.s.
自分の夢のために働きたい	2.52	(0.96)	3.03	(0.81)	2.94	(0.81)	2.73	(1.10)	n.s.	n.s.	男子：日本＜中国 女子：日本＞中国 日本：男子＜女子
プライドのもてる仕事をしたい	2.53	(0.96)	2.78	(0.84)	2.97	(0.81)	2.68	(0.97)	n.s.	n.s.	男子：日本＜中国 中国：男子＞女子
出世したい	2.60	(0.97)	2.65	(0.87)	3.04	(0.77)	2.50	(1.08)	n.s.	男子＞女子	男子：日本＜中国 中国：男子＞女子
社会に貢献したい	2.84	(0.93)	2.86	(0.79)	2.51	(0.96)	2.86	(0.80)	n.s.	男子＜女子	n.s.

Table9　生活意識の平均値（SD）及び分散分析の結果

	日本		中国		分散分析の結果		
	男子	女子	男子	女子			
	平均値　(SD)	平均値　(SD)	平均値　(SD)	平均値　(SD)	日本・中国差	性差	交互作用
一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい	2.95　(0.94)	2.43　(1.00)	3.17　(0.86)	2.75　(1.09)	日本＜中国	男子＞女子	n.s.
人間は人生目標がないと暮らしてゆけない	3.05　(0.88)	2.71　(0.91)	2.76　(1.03)	2.73　(1.09)	n.s.	n.s.	n.s.
やりたいことにいくら困難があっても挑戦してみたい	2.82　(0.84)	2.71　(0.80)	2.84　(0.84)	2.67　(0.83)	n.s.	n.s.	n.s.
若いうちはいろいろな仕事を経験したい	2.90　(0.86)	2.85　(0.85)	2.72　(0.99)	2.60　(0.99)	日本＞中国	n.s.	n.s.
多少退屈でも平穏な生涯を送りたい	2.80　(0.90)	2.94　(0.73)	2.65　(0.94)	2.41　(1.06)	日本＞中国	n.s.	男子：日本＞中国 中国：男子＞女子
大きな組織の中で自分で力を発揮したい	2.70　(0.82)	2.75　(0.83)	2.86　(0.76)	2.95　(0.84)	日本＜中国	n.s.	n.s.
暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい	3.14　(0.79)	3.08　(0.74)	3.05　(0.84)	2.83　(1.00)	日本＞中国	n.s.	n.s.
結果の成否は考えず、やってみることが大切だ	2.96　(0.79)	3.06　(0.70)	2.97　(0.80)	2.64　(1.05)	日本＞中国	n.s.	女子：日本＞中国 中国：男子＞女子
努力すれば、きっと報われる	2.86　(0.94)	2.83　(0.86)	3.13　(0.84)	2.91　(0.75)	日本＜中国	n.s.	n.s.
あまり目立たず、人並みであるのが良い	2.59　(0.89)	2.85　(0.81)	2.72　(0.81)	3.04　(0.83)	n.s.	男子＜女子	n.s.
自分の会社や店を作りたい	2.29　(1.06)	2.50　(1.10)	2.47　(1.06)	2.66　(1.01)	n.s.	n.s.	n.s.
学歴より技術や技能を身につけることが大事だ	3.08　(0.80)	2.95　(0.82)	3.06　(0.79)	3.03　(0.83)	n.s.	n.s.	n.s.
望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ	2.71　(0.79)	2.72　(0.72)	2.67　(0.83)	2.55　(0.88)	n.s.	n.s.	n.s.
親に反対されても自分がやりたいことをしたい	3.16　(0.76)	3.02　(0.78)	2.86　(0.93)	3.05　(0.73)	n.s.	n.s.	男子：日本＞中国
家族は過大な期待をしている	2.19　(0.94)	2.25　(0.92)	2.49　(1.03)	2.25　(0.94)	n.s.	n.s.	n.s.
仕事よりも、自分の趣味や自由な時間を大切にしたい	2.98　(0.82)	2.91　(0.76)	3.01　(0.82)	2.92　(0.79)	n.s.	n.s.	n.s.
将来、職につけるかどうか不安だ	3.14　(0.92)	3.09　(0.91)	3.21　(0.88)	3.07　(0.82)	n.s.	n.s.	n.s.
今の世の中は若者にとって息苦しい感じがする	2.69　(1.04)	2.71　(0.92)	2.97　(0.96)	2.83　(0.88)	日本＜中国	n.s.	n.s.

得点が高かった.

また,「あまり目立たず, 人並みであるのが良い」（F=12.07, p=.001）では女子の得点が高く,「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」（F=24.95, p<.001）では男子の得点が高いという性差がみられた.

10. まとめ

本研究は，大学生はどのような進路意識と職業意識をもっているのか，その様相を記述し，また，日本と中国の学生の意識の相違を比較検討することが目的であった．その結果，進路意識と職業意識の多くの要因で，日本と中国の学生で相違がみられた.

主な結果をまとめると，日本の学生に顕著であったのは，まず，進路を考える際に，楽しみである一方で，不安も高いという結果であった．進路や職業選択の際に，より多くの要因を重視し，特に職種や業種，対人関係の側面を重視していることがうかがえた．また, 職業選択の際に, メディ

アの影響力が中国の学生と比べて大きい．就業目的は，「自己実現のため」と「生計を立てるため」が，職業観では，「収入さえあればよい」と「楽しく働きたい」が，中国の学生と比較して顕著であった．

一方，中国の学生に特徴的であったのは，まず，将来に明確な目標を持ち，就きたい職業の知識ももっているなど進路と職業に関する自己認識が高いことであった．また進路や職業選択の際に，育児休業・休暇等の制度，勤め先の規模，勤め先のキャリアパス・人事育成制度を重視していた．そして，「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」,「大きな組織の中で自分で力を発揮したい」といった職業への積極的な態度が顕著であった．

【文献】

財団法人　日本青少年研究所　(2013)．高校生の進路と職業意識に関する調査報告書　－日本・米国・中国・韓国の比較－

広井甫　(1982)．職業観・労働観　進路指導の基礎知識　福村出版　Pp.12-14.

今城志保・瀧本麗子　(2011)．日中大学生の働く目的についての比較調査　－就職意識と個人的価値観－　経営行動科学学会第14回大会年次大会：発表論文集 (14)，360-365.

【付記】

本研究は，駱天驕の修士論文（2014年１月愛知学院大学大学院総合政策研究科提出）で収集されたデータを再分析したものである．調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます．

Abstract: The purpose of this study was to examine the career and occupational attitudes in Japanese and Chinese university students, and compare them. The participants were 219 students (154 males and 65 females) in Japan, and 255 students (144 males and 111 females) in China.

As a result, there were differences in many factors of the career and occupational attitudes between Japanese and Chinese university students. Japanese university students had pleasures and anxieties about their future. On the other hand, Chinese university students had clear aims in their future.

keywords: career attitudes, occupational attitudes, university students, cross-national comparison between Japan and China